

2018年10月31日

Vol.117

シャープ・
レシオ

リターンが高い方がいいファンド？

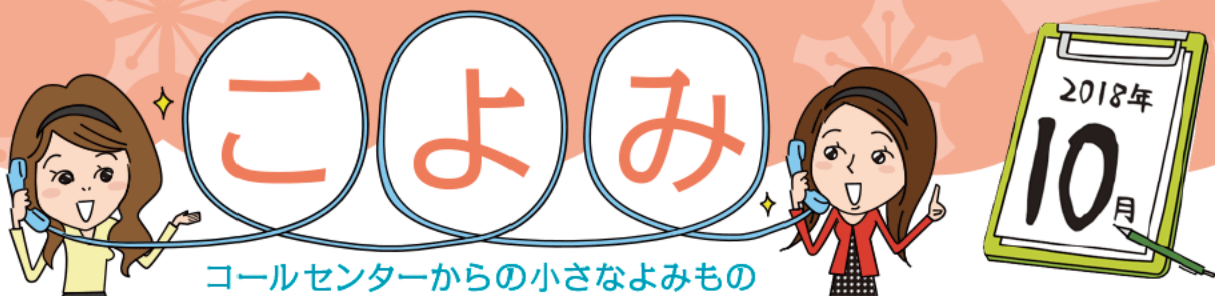
「ローリスク・ローリターン」「ハイリスク・ハイリターン」などの言葉を耳にされたことがあると思います。一般に、低リスクの資産に投資をすれば得られるリターンも低く、逆に高リスクの資産であれば高いリターンを期待するという意味で使われます。

ファンドに投資をするうえでも、リスクを取るならリターンは期待したいものです。

取っているリスクに見合ったリターンが得られているかを見るための指標として、「シャープ・レシオ」があります。

そこで今回は、「シャープ・レシオ」について押さえていただきたいと思います。





ファンドは、値動きのある資産に投資をするので、価格が変動します。それゆえ、一定のリターンが得られるわけではなく、プラス・リターン(収益)・マイナス・リターン(損失)のどちらの可能性もあります。また、リターンの幅は、その時によってバラつきがあり、このリターンのバラつき度合い(振れ幅)を示す値のことを標準偏差(リスク)といいます。

ファンドは、投資対象によってリスクの大きさが異なります。例えば、一般に、債券より株式の方がリスクが大きく、リスクを取った分だけリターンを期待したいところですが、そのリスクに見合ったリターンを得ることができるか、投資をするうえで気になるところです。

そこで、取っているリスクに見合ったリターンが得られているかを見るための指標として、シャープ・レシオというものがあります。リスクを取った分から投資成果としてのリターンがどれだけ得られたか、つまりは運用効率の高さを表し、数値が高い方がより効率的な運用と言えます。

計算式は次の通りです。

$$\text{シャープ・レシオ} = \frac{\text{リターン} - \text{無リスク資産の利子率}}{\text{標準偏差(リスク)}}$$

無リスク資産の利子率には、日本国債の利回りや預貯金の金利を代入することが一般的ですが、最近では国内金利がほぼゼロに近い状態であることから、簡便的にリターンをリスクで割ることによって算出できます。

例えば、リスク5%、リターン5%のAファンドと、リスク15%、リターン10%のBファンドでは、Bファンドの方がリターンが高いので、一見魅力的に映るかもしれませんが、しかし、シャープ・レシオを比較すると、Aファンドは1.0、Bファンドは0.7となり、Aファンドの方が運用効率の点では優れていると言えます。このように、シャープ・レシオは、リスクとリターンの数値が異なるファンドを比較するのに用いると便利な指標です。

投資対象とする資産が異なるファンドは、おのずとリスク度合いも異なることから、一様に比較することはできませんが、シャープ・レシオを比較して、ファンド選びの参考にしてみたいかがでしょうか。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00